

メニコン  
CSRレポート  
2020

より良い視力の提供を通じて、  
広く社会に貢献する。

Menicon  
CSR Report  
2020

# メニコン CSRレポート 2020

Menicon  
CSR Report  
2020

- 01 編集方針
- 02 トップメッセージ
- 03 会社概要
- 04 財務・非財務ハイライト
- 05 企業理念
- 06 CSR 方針
- 07 メニコングループのSDGsへの取り組み
- 09 《特集》メニコン4つの課題と社会への貢献
- 10 **重要課題1 視力を提供する**
  - ・世界的な近視人口の増加をコンタクトレンズの力で抑える
  - ・培ってきた技術と製品を応用してさらなるニーズに応える
- 12 **重要課題2 眼の健康を守る**
  - ・どんなときもお客様のためにサービスと情報を届け続ける
  - ・正しい知識と理解を広げて一人ひとりの眼の健康を守る
- 14 **重要課題3 技術と人材を育成する**
  - ・教育支援を通じた人材育成と誰もが活躍できる環境を目指して
- 15 **重要課題4 持続可能な価値を創る**
  - ・眼の健康を守る知見を活かして新たな価値を創出する
  - ・世界のより多くの人たちへ見える喜びを届けるために
- 17 エンドユーザーとの関わり
- 18 業界関係者との関わり
- 19 社員との関わり
- 20 株主との関わり
- 21 社会との関わり（環境面）
- 22 社会との関わり（文化面）
- 25 コーポレートガバナンス

## 編集方針

メニコンは、人・社会・地球環境の調和を図り、社会に役立つ商品とサービスの提供を通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。本レポートでは、幅広いステークホルダーの皆様へ、メニコンのCSRに関する考え方や取り組みをお伝えするために、企業としての理念や方針、2019年度の主な活動を報告しています。

本レポートに掲載しきれなかった最新情報や、個々の活動についてのさらに詳しい情報は、Webサイトに掲載しています。

<https://www.menicon.co.jp/company/csr/>

本レポートとは別に、メニコンの事業活動全体を俯瞰できる統合レポートを発行しています。統合レポートは下記からご覧いただけます。  
[https://www.menicon.co.jp/company/ir/annual\\_report.html](https://www.menicon.co.jp/company/ir/annual_report.html)

## 対象組織

株式会社メニコンを中心に、一部、国内・海外のグループ会社における取り組みについても報告しています。

## 対象期間

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）の事象を中心に報告しています。

## 発行年月

2020年8月

## 関連情報

- ・社会貢献活動・CSR  
<https://www.menicon.co.jp/company/csr/>
- ・CSRレポートのバックナンバー  
<https://www.menicon.co.jp/company/csr/policy/>
- ・統合レポート（アニュアルレポート）  
[https://www.menicon.co.jp/company/ir/annual\\_report.html](https://www.menicon.co.jp/company/ir/annual_report.html)

## 守るべきものと 変えるべきものを見極め、 新しい時代へ挑戦します。

株式会社メニコン  
代表執行役社長

田中英成



この度の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によりお亡くなりになった方々、ご遺族の皆様には謹んで哀悼の意を表します。また、罹患されている方々におかれましては心よりお見舞い申し上げますとともに、感染予防や診療などに日々対応いただいている医療従事者の皆様には深く感謝いたします。

今回のように今まで皆が当たり前と思っていた生活や活動が制限されるという事態を受け、当社も変えていくべきものと守るべきものを見極め、新しい時代とともに歩んでいく必要があると感じました。まず、「エンドユーザーファースト」の考えは変えてはいけないものです。製品やサービスを通じて「見える喜び」、「生きる喜び」を提供する姿勢は継続していきますが、さらなるオンラインの利用や店舗の在り方を見直すなど、製品を提供するスタイルや手法は最新の技術を活用していきたいと考えています。

事業継続の観点では、コスト削減や効率性を追求した従来の選択と集中という考え方が、今回のような事態に

おいては非常に脆弱であり、結果的にコスト上昇につながると感じました。「リスクマネジメント」についても考え方を変えていく必要があると考えています。

また、これからは事業の継続と社会的責任の両面を追求していく「サステナビリティ」がますます重要となります。当社が「メニコン環境宣言」に掲げている「人にも動物にも環境にも優しい地球企業でありたい」という願いは変わりません。エネルギー消費抑制のために導入したクールビズ用ユニフォームの着用も継続し、これまで以上に環境に配慮した商品開発にも取り組んでいきます。

そして、企業が成長していくためには従業員の力が欠かせません。従業員に個々の能力を最大限に発揮してもらうためにも従業員とその家族の心身の健康を維持できるよう、健康経営の推進にも取り組んでいきます。

メニコンは、ステークホルダーの皆様から永く「サポーター」として応援していただけるよう邁進してまいりますので、変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 会社概要

会社名	株式会社メニコン
本社所在地	〒460-0006 愛知県名古屋市中区葵三丁目21番19号
創業	1951年2月
設立	1957年7月
代表者名	代表執行役社長 田中英成
資本金	53億9,604万円
従業員数	1,416名
事業所数	営業所15、販売店49、研究所・工場6、カスタマーセンター2、物流センター5

(2020年3月31日時点)

## 事業紹介

### コンタクトレンズ事業

安全性へのこだわりと、快適さや利便性を備えたコンタクトレンズの創造と進化を追求するメイン事業です。そのためにお客様の声に耳を傾け、お客様の目線で発想し、製品とサービスの領域を広げ、新たなニーズにお応えすることが私たちの使命と認識しています。「視力の提供を通じ、信頼できるパートナーとしてお客様の人生と関わっていく」想いから、お客様の瞳の未来を見つめ、生涯にわたって一人ひとりにふさわしい「見える喜び」をお届けしています。

### 動物医療事業

家族の一員であるペットの瞳は、飼い主とのコミュニケーションに欠かせない感覚器官です。同事業では、人間の眼科分野におけるコンタクトレンズ・眼内レンズ開発で培った技術をベースに、動物の眼科医療に応用した犬用眼内レンズ「メニわんレンズ」や、犬猫用の「メニわん治療用コンタクトレンズ」を開発・発売し、獣医師とともに日本の動物眼科医療の発展に貢献しています。

### 環境バイオ事業

コンタクトレンズケア用品の開発で培った技術を環境バイオ事業分野に活用しています。酵素技術を活かした稲わら分解促進材「アグリ革命」の開発をはじめ、家畜排泄物を迅速にたい肥化する「resQ45」、食品残渣などの未利用資源の活用など、メニコン独自の学術的な研究開発アプローチで、環境バイオ事業の可能性を大きく広げています。

### ライフサイエンス事業

60年以上にわたるコンタクトレンズ事業で培った開発力や技術力、そして最も目を向けなくてはならない「安全性へのこだわり」を、ライフサイエンス領域である生殖補助医療、基礎研究、先端医療など、眼科領域以外の分野への展開によって質の向上に貢献しています。

## 子会社紹介

### 【日本】

株式会社メニコンネット  
株式会社メニコンビジネスアシスト  
株式会社メニワン  
株式会社ダブリュ・アイ・システム  
富士コンタクト株式会社  
株式会社アルファコーポレーション  
株式会社エーアイピー

### 【アジア・オセアニア】

Menicon Singapore Pte. Ltd.  
Menicon Singapore Sales Pte. Ltd.  
温州欣視界科技有限公司  
Menicon Korea Co., Ltd.  
Menicon Australia Pty Ltd

### 【欧州】

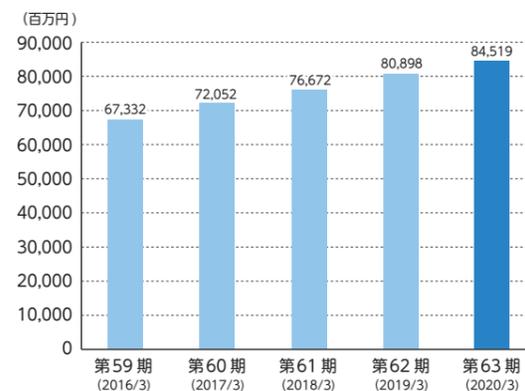
Menicon Holdings B.V.  
Menicon B.V.  
Menicon SAS  
Menicon Pharma SAS  
Menicon GmbH  
Menicon Limited.  
Menicon Iberia S.L.  
SOLEKO S.p.A.

### 【北米】

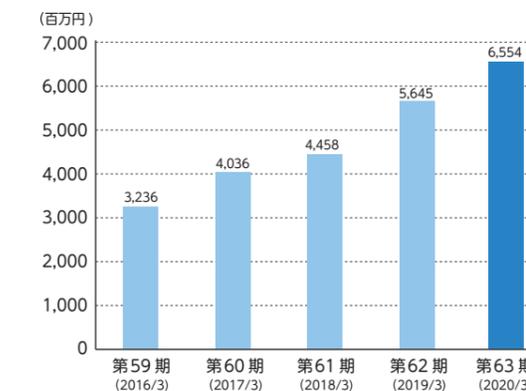
Menicon America, Inc.

## 財務・非財務ハイライト

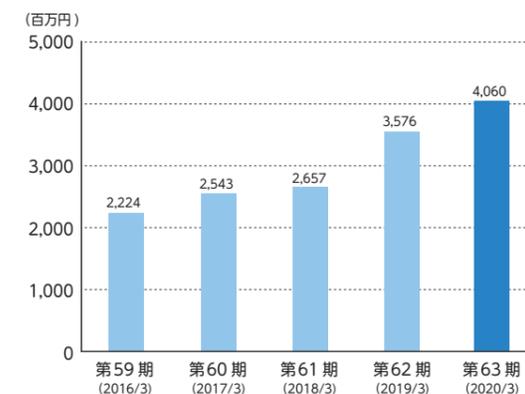
### 売上高



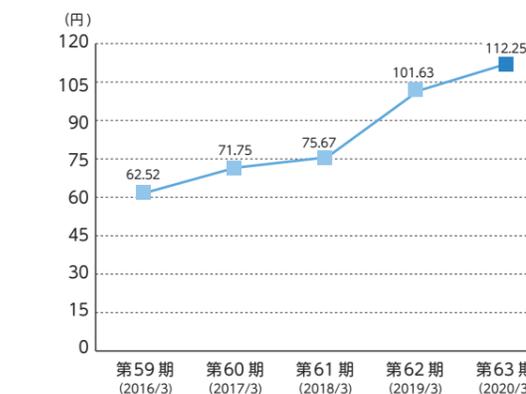
### 経常利益



### 親会社株主に帰属する当期純利益

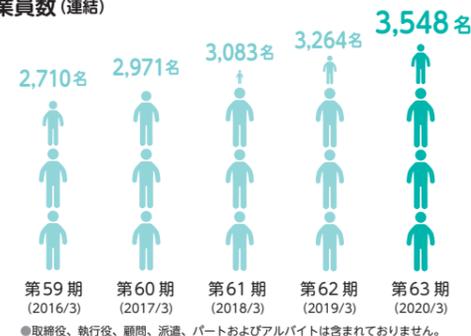


### 1株あたりの当期純利益

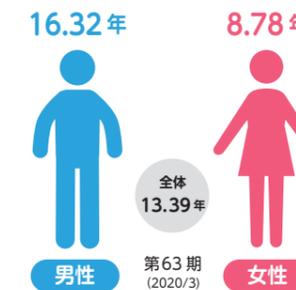


●当社は2018年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。第59期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し1株当たり当期純利益を算定しています。

### 従業員数 (連結)



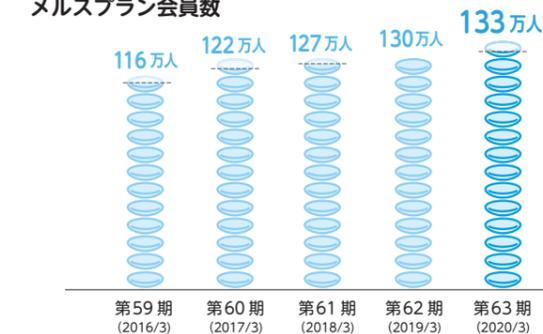
### 平均勤続年数 (単体)



### 平均残業時間 (単体)



### メルスプラン会員数



## 企業スローガン

より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する。

## 経営理念

### Values.....価値観

何もないところから、新たな価値を生み出すという、誰もやっていないことに、果敢に挑戦すること。

創造 Creation

独創 Originality

挑戦 Challenge

### Mission.....私たちはどんな企業でありたいか

メニコングループは、コンタクトレンズで培った技術と人で、社会に役立つ商品やサービスを世界に提供し続ける創造型スペシャリスト企業であること。

### Vision.....私たちが実現する夢 単なる夢で終わらせない夢

すべてのステークホルダーから尊敬され愛される企業の頂点、No.1になる。

#### ステークホルダーに対するMission

##### エンドユーザー

パイオニアカンパニーとして、優れた技術で見える喜びと生きる喜びの提供により顧客満足を高め、すべての顧客から永く「エンドユーザー」として利用し続けたい企業と思われること。

##### 業界関係者

リーダーカンパニーとして、業界発展への積極的な寄与により外部研究者、得意先や取引先などの協同者満足を高め、すべての業界関係者から永く「パートナー」として関わり続けたい企業と思われること。

##### 社員

人間尊重カンパニーとして、自己実現できる生きがいのある就労環境の整備により従業員満足を高め、すべての従業員から「ファミリー」として働き続けたい企業と思われること。

##### 株主

道徳尊重カンパニーとして、遵法精神を貫き、健全な業績により株主満足を高め、すべての株主から永く「サポーター」として応援し続けたい企業と思われること。

##### 社会

地球市民として、すべての生命や環境、すべての文化や歴史に敬意を払い、すべての市民の満足を高め、すべての尊い命から永遠に「良き隣人」と思われ続ける企業であること。

## 品質方針

優れた技術で見える喜びと生きる喜びの提供により顧客満足を高める。

## Vision 2020

### 2020年の当社グループのあるべき姿

- 商品開発から顧客サービスまで一貫した優秀なシステム・体制を構築・維持することによって他の追随を許さない商品とサービスを世界中へ提供し、顧客からの絶対的な信頼・支持を得ていること。
- 業界関係者や同業他社との提携・協力についても柔軟な姿勢をもって臨み、健全なグローバル市場を確立し、秩序を維持することによって、エンドユーザーの健康を守っていること。
- コンタクトレンズで培った技術を応用し、創造的かつ独創的な技術で眼科医療分野以外の新規事業に進出し、生命や環境に対しても新しい商品やサービスを提供していること。

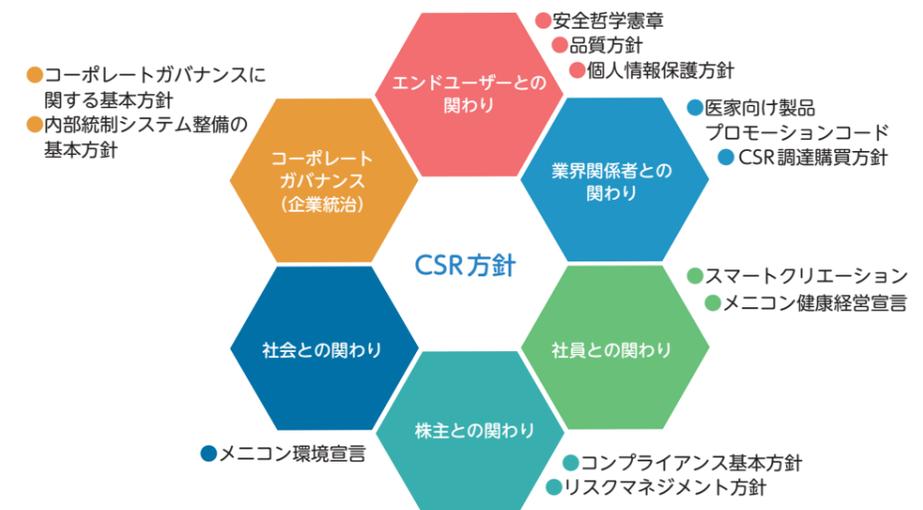


## CSR方針

CSRおよびSDGsに関するグループ内の意識向上を図り、常に高い認識を持って行動することに努めるとともに、CSR活動に関する情報開示を行い、各ステークホルダーとの連携強化を図ることで、持続可能な発展に貢献します。



1. メニコングループは、人・社会・地球環境の調和を図り、社会に役立つ商品とサービスの提供を通じて、持続可能な社会の実現を目指します。
2. メニコングループは、国内外の法令をはじめとする社会ルールを遵守し、企業倫理を常に向上させ、持続成長可能な事業活動を行います。
3. メニコングループは、CSR意識向上を図り、従業員一人ひとりが常に高い認識を持って行動します。
4. メニコングループは、CSR活動に関する情報開示を行い、ステークホルダーと対話を深めながら、利益ある成長を図ります。



## ～安全哲学憲章～ Premium Safety

### その先の「安全」を目指して

私たちメニコンは高度管理医療機器を取り扱うメーカーである。だからこそ、私たちはお客様の眼の「安全」を最優先に考えたものづくりをしなければならない。

私たちメニコンの考える「安全」とは、「時代に先駆けて、より高い基準を自ら設定し、それを越えるべく挑戦し続けることによって初めて実現される安全」である。私たちはひたむきにこの「安全」にこだわり続けることにより、お客様と共に驚きと感動を分かち合えると信じる。

私たちメニコンは研究開発から生産、物流、営業活動を含むあらゆる企業活動において、「安全」を一貫して追求する体制を整え、進化させる努力を決して惜しまない。これが医療にたずさわる企業の社会的責任であると考えます。また、これが「目にたずさわる責任」である。

さらに、私たちメニコンの挑戦はこれに終わらない。私たち一人ひとりが「安全」を語る伝道師として夢と誇りを持ち、新しい「安全」を創造するために不可能と思われる領域に対しても積極果敢に挑戦し続けていく。

以上が私たちメニコンの「安全哲学」である。

# メニコングループのSDGsへの取り組み

メニコンは、2009年に「メニコン環境宣言」を掲げ、地球の未来を見据えて「人にも動物にも環境にも優しい地球企業でありたい」と願い、活動してきました。今後も持続可能な社会を見据えて、変わらぬ想いでSDGsに取り組んでいきます。



## 視力

コンタクトレンズ事業を中心として安心・安全な製品やサービスを通じて皆様に見える喜びを提供します。

メルスプラン

豊富な製品ラインアップ

近視進行抑制への取り組み



## 健康

地球企業として人だけでなく動物の健康を通じて「生きる喜び」を提供します。

禁煙推進への取り組み

ライフサイエンス事業

動物医療事業

スマートクリエーション  
(メニコンの働き方改革の取り組み)



## 環境

環境に配慮した製品開発や工場の改善に取り組んでいます。

工場における環境への取り組み

環境に配慮した製品の開発

環境バイオ事業

環境保全活動

- ・なごや西の森づくり・メニコンの森
- ・クールビズ・ウォームビズ



## 社会

文化やスポーツ、教育への支援を通じ、社会に貢献しています。

メニコンカップ

メニコン ANNEX

スポーツビジョン

未来を担う若者へ向けた教育支援



## 工場における環境への取り組み

### 廃棄物削減への取り組み

メニコンでは、製造工程で使用するプラスチックを上質な資源と認識しています。工場では使用後も極力廃棄せず、工場内外で有効活用しています。

<関工場・各務原工場>

工場で使用したプラスチックは、リサイクル業者(中部クリーンシステム)を通じて、さまざまなプラスチック製品の原材料として活用されています。

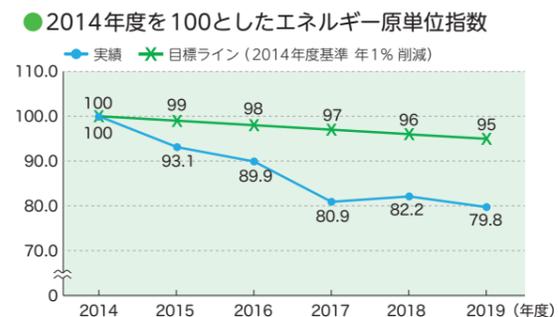
<シンガポール工場>

シンガポール工場では、使用後のプラスチックの約40%を二次包装パッケージの原材料として再利用しており、残りのプラスチックもリサイクル業者へ受け渡しています。



### 温室効果ガス削減への取り組み

メニコンが地球に優しい企業として活動する上で、気候変動は重要な課題と認識しており、関工場ではエネルギー消費量原単位で年1%以上の削減を目標に取り組んでいます。(原単位:生産梱包数)



### 水資源の有効活用

コンタクトレンズ装着脱の前には手洗いに水を使い、ハードコンタクトレンズや定期交換型ソフトコンタクトレンズでは、使用後にケア用品(液剤)によるレンズケアを行う必要があり、水資源はコンタクトレンズに関わる重要な資源と認識しています。

2015年に設立した各務原工場では、従来と比較し50%の節水が可能な純水製造装置を採用しました。関工場では、ソフトコンタクトレンズの生産過程で排出される水の一部を、工場内のトイレの排水として活用するなど、水資源の有効活用に取り組んでいます。



純水製造装置

## 環境に配慮した製品の開発

シンガポール工場で生産している1日使い捨てコンタクトレンズ「Magic」は、当社従来品(メニコン1DAY)と比較してレンズ容器のプラスチック使用量を約80%削減し、パッケージはコンタクトレンズの製造工程で使用したプラスチックを100%再利用して生産しています。



従来品のレンズ容器(左)と「Magic」のレンズ容器(右)



パッケージ



# 4つの課題と 社会への貢献

1951年に日本初の角膜コンタクトレンズを独自に開発・実用化して以来、メニコンはパイオニア企業として国内のコンタクトレンズ業界をリードしてきました。これからも事業を通じて、国や地域、業界の枠を超え、お客様の快適なライフスタイルと、より良い社会の実現に貢献していきます。

## 1

### 視力を提供する

あらゆる世代に応じられる、個々に最適な視力と快適なライフスタイルを提案、提供し続けます。

▶ P10 へ

## 3

### 技術と人材を 育成する

ものづくりを支える「技」と「知」の継承。時代の流れに風化させない志で、未来を導きます。

▶ P14 へ

## 2

### 眼の健康を守る

高度管理医療機器メーカーとして、安全、快適、清潔な瞳を見守る責務を果たします。

▶ P12 へ

## 4

### 持続可能な 価値を創る

コンタクトレンズ事業を核に、新分野へ踏み出し、次なる企業価値を創出していきます。

▶ P15 へ

### メニコン 4つの重要課題

「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する。」という企業スローガンを実践するために、メニコンは4つの重要課題を定めています。それは、一人ひとりに最適な視力を提供するとともに、医療機器メーカーとして眼の健康を守る責務を果たしながら、創業以来培ってきた技と知を活かして挑戦し、いつの時代も社会に価値を提供し続ける——私たちが受け継ぐ想いと姿勢を示しています。

# 1

## 重要課題 視力を提供する

### 世界的な近視人口の増加を コンタクトレンズの力で抑える



#### 近視の進行を抑制し、より良い視力を提供するオルソケラトロジーレンズ

近年、世界的な社会課題となっている近視人口の増加。その数は東アジアを中心に増えており、2050年には世界人口の約半数が近視になるとも推定されています。

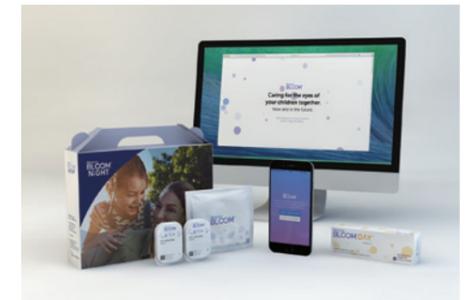
日本でも近視の子どもが増加しています。文部科学省が2020年3月に公表した2019年度の学校保健統計調査によると、「裸眼視力 1.0未満の者」の割合は小学校で34.57%、中学校で57.47%、高校で67.64%と報告されており、いずれも過去最多の割合となりました。近視が進行して強度近視になると、将来的に白内障や緑内障など眼疾患の発症リスクを上昇させる恐れがあると指摘されています。こうした状況を受け、近視の進行を抑制することの重要性が認知され、取り組みが広がっています。

メニコンでは、特殊なハードコンタクトレンズで角膜の形を矯正する「オルソケラトロジー」に取り組んでいます。近視は、角膜を通して目に入ってくる像が網膜の手前で焦点が合ってしまうため、ぼやけて見える状態です。「オルソケラトロジー」は、就寝前に「角膜矯正用コンタクトレンズ（オルソケラトロジーレンズ）」を装着し、寝ている間に角膜の形を矯正することで、近視を改善する治療方法です。手術の必要がなく、レンズをはずした後も角膜の形状が一定時間保たれるため、日中は裸眼で過ごすことができます。

メニコングループとして、オルソケラトロジーレンズを

国内のみならず、オランダ、欧州諸国や中国などでも販売しています。欧州では長年の研究結果により「Menicon Bloom Night」が近視進行抑制用オルソケラトロジーレンズとして欧州で初めてCEマーク認証を取得しました。また、米国では近視マネジメント<sup>※</sup>用オルソケラトロジーレンズ「Menicon Z Night」の米国食品医薬品局（FDA）承認を取得しました。メニコングループは「ずっと輝く瞳に。」を追求し、近視進行抑制の分野で社会に貢献していきます。

※本レンズは、有資格処方家による治療のもとに、近視マネジメント（承認書上の表記：management of myopia）としての適応が認められました。視力補正（近視矯正）のための角膜矯正（承認書上の一般的な表記：reduction of myopic refractive error）等を使用目的とする適応を「近視マネジメント：management of myopia」と表記しています。



「Menicon Bloom」シリーズ

### VOICE

#### 「近視進行抑制市場のリーディングカンパニーを目指して」

全世界的に近視人口の増加は大きな社会問題となっています。メニコンにおいても、2018年度から近視進行抑制事業への取り組みが本格的に始動しました。

日本国内における「近視進行抑制」の認知度はまだまだ低いのが現状です。一方、海外では、各メーカーが着々と近視進行抑制に関する認可を取得しており、まさに近視進行抑制ビジネスの黎明期といえます。

当社はまず、欧州を中心に近視進行抑制システム「Menicon Bloom」を展開していきます。将来はグローバル市場への拡大も目指していますが、各国の法規制や商習慣はさまざまであり、健全な市場形成のために取り組むべき課題は山積みです。業界関係者との連携を図りながら、近視進行抑制市場のあるべき姿を追求し、グループ一丸となって、リーディングカンパニーとしての責務を果たしていきたいと思っております。



プロダクト戦略部  
野村 弘子

## 1 重要課題 視力を提供する

# 培ってきた技術と製品を応用して さらなるニーズに応える

## 難題を乗り越えて実現した高品質ハードの量産技術が社会的評価を獲得

2019年12月、第33回中日産業技術賞（中日新聞社主催、経済産業省後援）において、3ヵ月定期交換型ハードコンタクトレンズ「フォーシーズン」が「中日新聞社賞」を受賞しました。中日産業技術賞は、先進性や市場創造性、将来への発展性、環境や健康・福祉への貢献性などの観点から優れた産業技術や製品を選定し、顕彰するものです。

「フォーシーズン」の受賞に当たっては、ソフトコンタクトレンズ（以下、ソフト）の製法で高品質なハードコンタクトレンズ（以下、ハード）の大量生産の実用化を世界で初めて実現したことが評価されました。

通常ハードは固形の材料を切削して一枚ずつ生産しますが、「フォーシーズン」は素材を型に流し込み化学反応で固めて成形するソフトの製法（モールド製法）を用いて、効率

的な生産を実現しました。

大量生産の実現で「ハードにも定期交換型を」というニーズに応えることができました。レンズの傷や紛失の不安から、ハード利用者の多くが交換用やスペアのレンズを求めているのです。ソフト利用者では一般的になっているお手元にスペアレンズがあるという安心を、ハード利用者にも感じていただくことができます。

また、2019年11月には、遠近両用タイプ「フォーシーズン バイフォーカル」をラインアップに加えました。スマートフォンの普及等により、日常的に近くを見る機会が多くなっています。近くの見え方に悩む利用者のニーズにもお応えしていき、快適なコンタクトレンズライフをより長く継続していただきたいと願っています。



第33回中日産業技術賞の授賞式にて



遠近両用タイプ  
「フォーシーズン  
バイフォーカル」

## VOICE

### 「いくつもの難題を乗り越えて」

ハードでありながら、従来の切削加工ではなく、ソフトの主な製法として近年採用されているモールド製法で大量生産を実現するという超難題に取り組みました。素材面では、短時間の製造で、かつ未反応物が極力少なくなる原料の配合を導き出し、水削・減菌工程を含むソフトとは違い、製造後にそのまま目に装着できる安全性を実現。さらに新製品として出す以上、世界最高級のスペックを有する素材を開発しました。

生産面では、ソフトより膨大な規格数に応じた精密な成形と製造技術を実現し、表面の滑らかさや薄型化による装着感向上を達成しました。

これらの難題に対し諦めずに取り組んだことで、世界初のモールド製法によるハードの大量生産実用化に成功し、中日新聞社賞という形で評価いただけたことを大変うれしく思います。今後も絶え間ない開発により、エンドユーザーと社会に貢献していきます。



素材開発担当  
**松本 昌浩** (左)  
生産技術開発担当  
**高井 和孝** (右)

## 2 重要課題 眼の健康を守る

# どんなときもお客様のために サービスと情報を届け続ける



## お客様の眼の健康を第一に考えた仕組み

お客様の眼の健康を守り続けたい。その思いをもとに、2001年、定額制コンタクトレンズサービス「メルスプラン」は生まれました。

コンタクトレンズは、日々レンズケアをして使用していても汚れや傷が少しずつ蓄積してしまいます。汚れや傷がひどくなれば買い換えとなるのですが、財布と相談した結果、躊躇して状態の悪いまま使い続ける方が少なくありませんでした。こうした使い方から眼の健康を損なうトラブルも増えていました。そこで、ユーザーにコンタクトレンズをその都度購入していただくのではなく、毎月定額料金を支払うことで常に状態の良いコンタクトレンズをご利用いただける仕組みが考案されたのです。

定額制サービスは、近年「サブスクリプション」としてさまざまな業種で話題となっていますが、「メルスプラン」は、コンタクトレンズをユーザーの眼に安全にお届けし、継続的に正しく使用していただく環境をつくり上げるために考え抜いて生み出されたビジネスモデルです。「サブスクリプション」はもちろん、「定額制」という言葉も一般的でなかった2001年にサービスを開始し、現在133万人を超える方にご利用いただいています。

眼の健康を守りたいという思いを込めたサービスが「メルスプラン」です。

## 大切な情報を見やすくわかりやすく

1日使い捨てコンタクトレンズ「1DAYメニコン プレミオシリーズ」の取扱説明書が、「ジャパンマニュアルアワード2019」で「優秀賞」「審査委員特別賞」「学生賞」を受賞しました。同アワードはマニュアルなどを評価・表彰する日本で唯一の賞で、コンタクトレンズ業界では初の受賞となりました。評価されたポイントは、①平易な文章、親しみやすいイラストを用い、堅苦しさを感ぜずじやに情報を伝えられている、②レンズのつけ方・はずし方の流れの全体像を把握しやすい、という2点です。制作においては、従来のものを見直し、ユーザーにとって見やすくわかりやすいこと、眼科医やスタッフが説明しやすいことを意識し、工夫しました。

メニコンではこれからも、ユーザーに満足いただける製品の提供に加えて、コンタクトレンズの正しい使用法の普及と誤使用による眼障害の予防を目指し、適切でわかりやすい情報の提供に取り組んでいきます。



受賞した取扱説明書の制作メンバー

## VOICE

### 「緊急事態宣言下にもサービスを継続したメルスプラン」

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、日本政府から緊急事態宣言が発令されたことを受け、多くの小売店が営業時間短縮や休業対応をしました。コンタクトレンズ販売店も例外ではありませんでしたが、メルスプラン加盟施設様との連携のもと、会員様とコミュニケーションをとり、コンタクトレンズ提供を含めたサービスを継続することができました。

「メルスプラン」は、当時まだ世間に定額制と

いう仕組みが浸透していない中、お客様の眼の健康を守るために開発したシステムで、エンドユーザーと販売施設、そしてメーカーである当社がそれぞれ結びつくビジネスモデルです。販売施設とメーカーが連携してエンドユーザーへサービスを提供するというこのビジネスモデルが、新型コロナウイルス感染拡大という誰もが想像しえなかった状況においても「強み」として機能しました。



代表執行役社長  
**田中 英成**

## 正しい知識と理解を広げて 一人ひとりの眼の健康を守る

### 眼科受診の重要性とレンズの適切な使い方を理解してもらうために

コンタクトレンズユーザーが眼と体の健康を保ちながら快適な生活を送れるように、メニコンではコンタクトレンズの適切な使用を促す啓発活動に取り組んでいます。

2019年8月から9月にかけては、啓発活動「カートに入れるその前に」を実施しました。この活動は、眼科での検査・処方を受けずに自分の判断でコンタクトレンズを購入するユーザーに対して、眼科を受診することの重要性と、自分の眼に合ったコンタクトレンズを使うことの大切さを理解してもらうために行ったものです。

近年、コンタクトレンズはインターネットや雑貨店などで手軽に購入できます。しかしそれに伴い、自分の判断でコンタクトレンズを購入するユーザーが増えており、中でもインターネットでの購入者の約8割が眼科を受診していないという調査結果があります。さらに、自分の眼に合わないコン

タクトレンズの使用や不適切な使用を続けてしまうことで、ドライアイや角膜の異常といった眼のトラブル、肩こりや頭痛などの体の不調を発症することも指摘されています。

「カートに入れるその前に」では特設サイトなどを通じて、コンタクトレンズが高度管理医療機器であり、眼科医による診療が重要であることや、誤った使い方を続けることが眼のトラブルの原因になりうることを訴えました。また、コンタクトレンズの使用に関するアンケートを実施し、協力いただいた方には、眼科を受診した上で、メニコングループの販売店「Miru」にて自分の眼に合ったコンタクトレンズに交換する機会を提供しました。

今後もメニコンでは、目の健康を守るための正しい知識の普及に取り組み、コンタクトレンズの不適切な使用による眼障害を低減させる活動を続けていきます。



特設サイトでコンタクトレンズの正しい使い方や眼科受診を促す情報を発信

### VOICE

#### 「メニコンならではの視点で啓発活動を展開」

眼科受診の必要性を、自分の判断で種類や度数を決めてコンタクトレンズを購入することで生じる「不定愁訴（ふていしゅうそ）」をキーワードに訴求しました。

一般的には馴染みのない言葉でしたので、コンタクトレンズ使用者に伝わりやすいように、見えすぎること（過矯正）で頭痛、肩こり等の不調が起きることを、一目でわかるようなイメージ写真を入れ、ネット通販での購入者に向けて

バナー広告や特設サイトで表現しました。取引先様への事前の案内でも賛同・理解を得て、結果として、約15万人が特設サイトを閲覧し、700名弱から「いいね!」と、医療従事者から64件のコメントをいただき、終了しました。

活動の第二弾として、「瞳を健やかに。コンタクト健康診断へ行こう!」をブランドサイト上で展開し、コンタクトレンズを快適に安全に使い続けていただく取り組みを行っています。



国内マーケティング戦略室  
松田 清貴 (左)  
佐合 真理子 (右)

## 教育支援を通じた人材育成と 誰もが活躍できる環境を目指して



### 地域の未来を担う人材育成に貢献

メニコンは教育支援活動を通じて人材育成に貢献しています。2019年度には、愛知県が主催する「かがやけ☆いちサステナ研究所」に参画しました。このプログラムは、これからの社会の担い手となる大学生に対して企業が環境分野の取り組みに関する課題を提示し、学生が調査や企業担当者との議論を通じて解決策を模索し提案するものです。

メニコンからは、「人にも動物にも環境にも優しい」メニコンの施策を検討せよ、との課題を提示しました。学生たちは工場見学や企業訪問を重ねて議論し合い、「災害時にも五感で『みえる喜び』を提供“メル助セット”で被災者支援」を提案。近年災害が相次ぐことを受け、メニコンの環境バイオ事業と技術を活かし、避難所での被災者とペットのストレスを解消するという案でした。学生たちを支援したメニコンの社員も刺激を受け、貴重な機会となりました。



学生とのディスカッションの様子

### 評価を受ける働きやすい環境づくり

関工場が、令和元年度（2019年度）の「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業（以下、エクセレント企業）」に認定されました。岐阜県では、仕事と家庭の両立支援に取り組む企業・団体の中で、特に優良な取り組みを行う企業を「エクセレント企業」に認定しています。

関工場は、他の事業所と比べて女性従業員の割合が高く、女性の活躍が欠かせません。2018年に女性活躍を推進するワーキンググループを立ち上げ、男女問わず働きやすい、働き続けたい環境づくりに取り組んできました。子育て期間中に活用できる社内制度を利用しやすくするためのマニュアル作成や、子育て世帯を対象としたライフキャリア研修などを開催し、多くの女性従業員が出産後に育休を経て復職しています。こうした関工場独自の取り組みが評価され、「エクセレント企業」の認定につながりました。



エクセレント企業認定式にて

### VOICE

#### 「サステナ研究所プロジェクトへの参画を通じて」

メニコンは社名が「目にコンタクトレンズ」からきている通り、コンタクトレンズのメーカーですが、「人にも動物にも環境にも優しい」企業を目指し、現在は環境バイオ事業やライフサイエンス事業、動物医療事業といった新規事業にも力を注いでいます。

研究課題の解決に向けたディスカッションの中で、学生たちが新規事業の技術に興味を持ち、着目してくれたことを非常に喜ばしく思うと

もに、普段社員たちが当たり前なものとして考えていることに「なぜ」「どうして」と疑問を持って突っ込んでくるのが新鮮であり、当たり前と思っていたことを見つめ直す良い機会となりました。

学生たちとディスカッションを重ねることで、未来を担う人材育成に貢献していくとともに、持続可能な社会の実現に向けた社内の取り組みにも活かしていきたいと考えています。



CSR & コーポレートコミュニケーション部  
大野 裕司

## 眼の健康を守る知見を活かして 新たな価値を創出する



### AIを活用した獣医眼科のサポートと、メニコン初の機能性表示食品を実現

メニコンの子会社であるメニワンは、犬の眼科診療をAI（人工知能）でサポートするWebサービス「Fundus AI（ファンダスアイ）」を開発し、2019年10月から提供を開始しました。

「Fundus AI」は、診察時に獣医師が撮影した犬の眼底画像をAIが解析し、可能性のある眼科異常所見について、解析結果と参考情報を提示します。ペットとして飼育されている犬が動物病院を受診する際、眼の病気の割合は皮膚・消化器・耳・筋骨格疾患・全身性疾患に次いで多いものの、獣医眼科の専門的な知識と技術を持つ獣医師が少ないという現状があります。「Fundus AI」は獣医眼科医療分野の複数の専門医の監修を受けて開発しており、獣医師が異常を見落とすリスクを軽減するとともに、病気の早期発見、早期治療につながると期待されています。今後、検査データを

蓄積していくことでAIの解析精度がさらに向上し、より良い診察のサポートを実現します。

メニコンはコンタクトレンズ以外の分野において、人の眼と体の健康を守るための事業に取り組んでいます。2019年8月には、メニコン初となる機能性表示食品「めにサプリ ビルベリー」を発売。眼の疲れを和らげたりピント調節機能を助けたりする機能があるとされるアントシアニンを使用したサプリメントです。また、たばこの煙が眼の健康に悪影響を及ぼすことから禁煙推進事業にも取り組んでいます。さまざまな禁煙推進グッズをメニコン ANNEXで販売しているほか、三次喫煙防止のため「来社1時間前からの禁煙」のお願いがメディアで多数取り上げられるなど、注目を集めています。

メニコンは眼科分野で培った技術や知見を他の分野に応用し、新たな価値を生み出す挑戦を続けていきます。

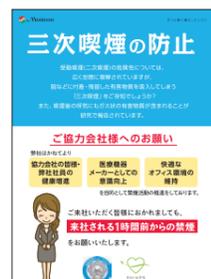
#### Fundus AI



獣医師向け Web サービス「Fundus AI」



「めにサプリ ビルベリー」



来社1時間前からの  
禁煙お願いポスター

#### VOICE

##### 「動物の眼疾患の早期発見に役立ちたい」

メニコンは人間の眼科分野で培った技術をベースにして、1997年に動物眼科医療の分野へ進出しました。それ以来、株式会社メニワンとなった現在まで、動物眼科医療領域を中心に、動物病院向けの各種医療機器販売や動物用サプリメント事業を展開しています。

当社は、2019年10月、犬の眼科診療をサポートする業界初の獣医師向けWebサービス「Fundus AI（ファンダスアイ）」をリリースし

ました。獣医師の先生は、診察時に撮影した犬の眼底画像をシステムに取り込むことで、AIの調査・解析結果と、可能性のある眼科異常所見に関する情報や解説を得ることができます。

私はサービス詳細設計からシステム開発、サービスローンチまでを担当しました。臨床現場で奮闘する獣医師の先生方を少しでも支援できるようなサービスに育てていきたいと考えています。



株式会社メニワン  
Vet-Tech 事業チーム  
マネージャー  
為井 達

## 世界のより多くの人たちへ 見える喜びを届けるために

### イタリアの新拠点と「Miru」シリーズで世界中に見える喜びを広げる

日本で培った高品質で安全なコンタクトレンズの知見を活かし、より多くの人たちに見える喜びを届けるために、メニコンは世界の各地域に拠点を設けて、多様な市場ニーズに応えています。

2019年10月には、イタリアのコンタクトレンズおよびコンタクトレンズケア用品の製造・販売会社である SOLEKO S.p.A. を有する FINEKO グループをメニコンの子会社として迎えました。

イタリアは欧州のディスポーザブルレンズ（使い捨てコンタクトレンズ）市場でイギリスに次ぐ第2位の市場を形成しており、1日使い捨てタイプを中心に成長を続けています。そうした中で、FINEKO グループの事業会社である SOLEKO S.p.A. は独自のコンタクトレンズケア用品の開発と製造を行ってきました。メニコングループに迎え入れる

ことで、コンタクトレンズケア用品の製品ラインアップが強化されるとともに、双方が持つ販売網の活用による相乗効果が見込まれています。

また、海外市場ではディスポーザブルレンズの海外向けオリジナルブランド「Miru」の浸透に努めています。

北米では、近視・遠視用・乱視用・遠近両用レンズのそろった「Miru 1month Menicon」シリーズの販売促進を強化しました。欧州やシンガポールでは、シリコンハイドロゲル素材の1日使い捨てコンタクトレンズ「Miru 1day UpSide」を展開しています。成長分野であるディスポーザブルレンズ市場において、1日使い捨てコンタクトレンズを中心としたさまざまなラインアップの製品の供給を拡大することで、世界の多くの方に広くメニコンのコンタクトレンズをお届けしています。



欧州の新たな拠点の一つとなったイタリアの SOLEKO S.p.A.



海外向けオリジナルブランド「Miru」シリーズ

#### VOICE

##### 「持続可能な経営の原点に立ち返り、グローバル経営にあたる」

新型コロナウイルスの感染拡大は都市封鎖や移動制限をもたらし、世界各地に製造・販売拠点を持つ当社にも当初混乱がありました。しかし、迅速な情報収集と現場対策により、グループ約4,000名の従業員等の安全、そしてサプライチェーンは早い時期から確保でき、Crisis Management（危機管理）が機能したといえます。一方で、コロナ禍は多くの「気づき」をもたらしました。経済価値と並び、企業が本来有すべ

き社会価値の再点検です。当社価値の源泉たる持続的な製品の開発や製造、それをエンドユーザーに送り届けるお得意先様を含めた供給網構築と支援、それらを可能にする従業員の確保と地域社会への貢献。健全で安心な社会と環境が、企業価値の土台であることをこれほど意識したことはありませんでした。未来からみて当社が必要とされる企業となれるか…「持続可能な経営」の原点に立ち返り、グローバル経営にあたっていく所存です。



海外統括本部長  
古賀 秀樹

## エンドユーザーとの関わり

エンドユーザーとのコミュニケーションを大切に、優れた技術を活用して使いやすさ・わかりやすさに配慮した安心・安全な商品・サービスを提供します。

### 安心のグループネットワーク「Miru」

メニコングループ販売店は、「見る」にこだわる”をスローガンに、各販売社で蓄積してきた知識・経験の共有や共同販促を行うことで、より強固なネットワークを構築するため、メニコンの直営店 (Menicon Miru、Miru+) およびメニコングループのコンタクトレンズ販売会社 (株式会社ダブリュ・アイ・システム、富士コンタクト株式会社、株式会社エーアイピー) の販売チェーン店 (エースコンタクト、富士コンタクト、シティコンタクト) のショップロゴを「Miru」に統一しています。

店舗ファサード・看板の段階的切り替えや、グループ販売店共通ホームページの立ち上げ、2018年に制定した「Miruの日」(毎年3月6日)における来店者様へのノベルティ進呈等を行い、全店が同じグループ店舗であるということをお客様にわかりやすく周知しています。また、2020年3月から、「Miru」グループ共通のテレビCMを放映しています。イメージキャラクターの浜辺美波さんを起用し、初めてコンタクトレンズを使う方にとって「Miru」が親しみやすく安心して来店いただける店舗であることを表現しました。



Menicon Miru JRゲートタワー店 富士コンタクト 町田店



シティコンタクト 佐賀店 エースコンタクト 港北東急店



「Miruの日」に全店で来店者様に進呈したノベルティ

メニコングループの販売店計165店(2020年6月19日時点)が一体となり、お客様とのコミュニケーションを通じて快適なコンタクトライフを提供し、毎日のワクワクのお手伝いを全店で取り組むとともに、「Miru」ブランドをより身近で便利な親しみのあるショップブランドと感じていただけるよう展開しています。



浜辺美波さんを起用したテレビCM

### ご相談の安心窓口、お客様センター

メニコンでは、お客様に正しく安全にコンタクトレンズをご使用いただくために、レンズやケア用品に関するお問い合わせをはじめ、さまざまな疑問や不安、お問い合わせのご相談窓口として「お客様センター」(0120-103109)を設置しています。電話でのお問い合わせは月平均約2,000件、メールでは月平均約600件に対応しています。的確かつ迅速にお客様のニーズに応えられるよう、幅広い知識が要求されるスタッフの教育に力を注ぐとともに、最先端のオペレーティングシステムを導入して、サービス品質の向上に努めています。このほか、メルスプラン約133万人(2020年3月末時点)の会員様や加盟施設との窓口である「メルスセンター」を設置し、いつでも安心してご利用いただける体制を整えています。



## 業界関係者との関わり

事業や各種協会など外部活動を通じ、得意先や取引先との公正な取引・競争環境を整える支援を積極的に行うことで業界発展に貢献します。

### シンガポール政府より勲章受章

当社代表執行役社長 田中英成は、2019年度National Day Awardsにおいて、シンガポール政府よりThe Public Service Star (Distinguished Friends of Singapore)を受章しました。The Public Service Starは、シンガポールの人々に対し、素晴らしい公共サービスを行った人物、もしくは芸術や文学、スポーツ、科学、ビジネス、専門職、労働運動などの分野で傑出した人物に贈られる国家勲章です。2020年2月にはピーター・タン駐日シンガポール大使が来社され、大使より勲章を拝受しました。

田中は、2009年4月に在名古屋シンガポール共和国名誉総領事に任命されて以来、10年以上にわたりシンガポールと日本の懸け橋となり、領事館業務に携わってきました。また、当社はシンガポールにおいて、2005年に販売子会社、2006年に製造子会社を設立し、同国への大型投資、技術開発、生産能力の拡充を進め、現在では当社グループの主要なビジネス拠点の一つとなっています。今後もシンガポールと日本の友好関係に一層貢献できるようさらに努力していきます。



### サプライヤーとの信頼関係づくり

メニコンが常に製品の品質向上を図り、お客様に安定的な供給を続けるためには、原材料や設備メーカー、さらには広告、ITなどの多くのサプライヤーの存在を抜きにしては語れません。サプライヤーとの信頼関係をより強固にし、当社の購買方針や取り組みをご理解いただくために、2013年度より開催しているのが主要サプライヤーに参加いただく「MenioClub (メニオクラブ)」です。今年も100社を

超える取引先企業の皆様をご招待し、代表執行役社長の田中より感謝の意を伝えるとともに、ミニライブを開催しました。懇親会を通じ、当社の執行役をはじめサプライヤー同士で活発に情報交換を行いました。業界動向や各社の取り組みなどを共有できる場として参加企業の皆様にも好評をいただいています。当社を軸に共存共栄の絆を広げ、業界全体の活性化につなげる機会へと発展させています。



### 眼の健康を支える人材育成に向けて

メニコンでは安全哲学に基づいた人材育成を全国の販売店にも広げるべく、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の5カ所の研修センターで研修を実施しています。研修内容は「コンタクトレンズ」と「接客」の2本柱です。コンタクトレンズ研修は受講生のレベルに応じて、ベーシック、アドバンスの2つのコースがあります。接客研修は接客マナー、クレーム対応、電話対応など5つのコースを用意して、多様な受講ニーズにお応えしています。

要望に応じて研修内容をカスタマイズし、出張講義も行います。また、研修センター情報誌「ザ・メニコン」を年2回発行し、必要な情報を多くの販売店へタイムリーにお届けしています。

### 安全使用の啓発と業界の発展に尽力

当社は、コンタクトレンズのパイオニア企業として、一般社団法人日本コンタクトレンズ協会のさまざまな活動に協力するとともに、一般社団法人日本医療機器産業連合会などの関連団体にも加盟し、幅広い活動を通じ、安全使用の啓発と業界の発展に貢献しています。

## 社員との関わり

従業員の人権を尊重するとともに、キャリア開発支援、働きがいを感じることでできる就労環境整備、人事・教育制度や福利厚生制度の確立・運用、健康経営推進により、従業員満足を高めて、グループ組織としてのパフォーマンスを向上させることを追求します。

### 新しいワークスタイルへの取り組み

当社は、この度の新型コロナウイルス感染症から従業員を守ることに、感染症拡大防止のため、スタッフ部門を中心に原則テレワークへ移行しました。メニコンとしては、2017年から「スマートクリエーション」を掲げて実践してきたオフィス改革や働き方改革を、さらに拡大した形になります。実務ではWeb会議システム等のITツールを活用してコミュニケーションを維持することで業務の遂行に努めています。外出自粛要請の緩和とともに新しい生活様式への移行が求められる中、毎日会社に出勤して業務を行うという今まで常識とされていたスタイルを今一度見つめ直し、当社ではテレワークを含めた多様な働き方をこれからも取り入れ、新たな価値を創造していきます。

### グローバル戦略を見据えた人材育成制度

新しい商品・サービスを世界に広げ、すべてのステークホルダーから信頼され愛される企業を目指し、当社は「中核人材育成」に向けた体系的な研修を導入しています。グローバル意識の醸成や課題を認識する「グローバルマインドセット研修」を起点に、ボーダーレスな活躍を志向する社員を対象に具体的なスキルや問題解決力を養う「グローバル研修」を行い、世界で活躍できる人材の育成に励んでいます。

また、将来の経営幹部育成のために公募選抜型幹部育成プログラム「メニコンビジネスカレッジ」を開講し、経営に必要な知識の習得だけでなく、メニコンのDNAを受け継ぐ人材の育成にも力を入れています。併せて、階層別の「新入社員研修」「企画職2年目研修」「新任管理者研修」で、個々の成長や自己啓発を支援する機会を設けています。

### プロを育てるアドバイザー資格制度

メニコンは2002年より独自のコンタクトレンズアドバイザー資格制度「PAL<sup>\*1</sup>」を導入しています。①商品の品質を顧客に正しく確実に伝える力 ②商品の高付加価値化に対応できる力 ③習得した知識と技術を活用できる力、の3

つを備えた人材の育成に取り組んでいます。基礎的な内容の「エレメント」をベースに、「スーパー」「ハイパー」の3階層からなる試験は毎年600名近くの社員が受験しています。「スーパー」および「ハイパー」合格者は、外部にもコンタクトレンズのプロフェッショナルであることがわかるよう、名刺に保持資格を表示しています。

2016年には、当社のものでづくりの歴史や文化といった非学術的な分野における資格制度「BAL<sup>\*2</sup>」も導入しました。PALと併せて「真の安全哲学の伝道師」の育成を目指しています。そして、2019年に、PALとBALの最高グレードである「ハイパー」合格者の氏名を彫刻したプレートを、本社北館1階のギャラリー Menio に掲げました。資格を取得した社員がコンタクトレンズのプロフェッショナルとしての自覚を持ち続けられるように、社員一人ひとりが成長できる企業風土をつくり上げています。なお、退職時には、記念としてこのプレートを盾に入れて贈呈しています。

※1 Menicon Products Adviser License Systemの略称  
※2 Menicon Brand Adviser License Systemの略称



「ハイパー」合格者の氏名を彫刻したプレート

### 心身の健康サポートと健康経営

メニコンは経営理念にて「社員」を重要なステークホルダーの一つと位置付けています。インフルエンザ予防接種や禁煙外来治療費の援助、受動喫煙防止の取り組み、本社事業所でのあん摩マッサージ指圧師（国家資格）による施術、社員とその家族が利用できるメンタルヘルスケアのためのホットライン「こころの電話相談」などのサポートを充実させ、社員が健康を維持し、より良いコンディションで仕事に打ち込める体制を整えています。

2019年には、さらなる就労環境の整備と従業員満足の向上、従業員の心と体の健康を意識した経営を目指して、「メニコン健康経営宣言」を掲げました。代表執行役社長・田中英成が健康経営責任者に就任し、健康経営を推進していきます。

## 株主との関わり

コンプライアンスの維持・徹底とリスクマネジメントの強化・実行を行い安定した業績により株主満足度を高めます。

### 「新潟県トキ保護募金」へ寄付金贈呈

メニコンでは、トキ保護活動をさらに盛り上げることで、当社の新規事業である環境パイオ事業への理解を深めてもらうことを目的に、2018年度より株主優待制度に「トキ保護募金」をラインアップしています。

2019年には、株主の方々から優待申込をいただいた8万4,000円を新潟県庁にて寄付しました<sup>\*</sup>。当社は今後もトキの保護活動を支援していきます。



※2018年度は合計15万円の寄付の優待申込をいただきました。このうちの6万6,000円については2018年の新潟県庁訪問時に寄付しており、今回は残りの8万4,000円を寄付しました。

### 動物愛護委員会へ寄付金贈呈

メニコンは、2019年度の株主優待にて申込をいただいた10万8,000円を、法人会員であるエンジン01文化戦略会議「動物愛護委員会」へ寄付しました。

動物愛護委員会は、「犬・猫の殺処分ゼロ」を目指して活動しており、「飼いとげよう」の理念実現のために終生飼育の啓発活動を行っている団体です。当社では、2018年度より導入した株主優待制度に動物愛護委員会への寄付も設定しており、寄付金は、犬・猫の殺処分をゼロにするための活動や、動物愛護の啓発活動などに使用されます。

メニコンの子会社であるメニワンでは、動物医療事業を通じてペットの健康サポートを行い、人間と動物がより共存できる環境づくりに努めています。メニコングループは、



これからも人にも動物にも優しい企業であり続けられるように邁進していきます。

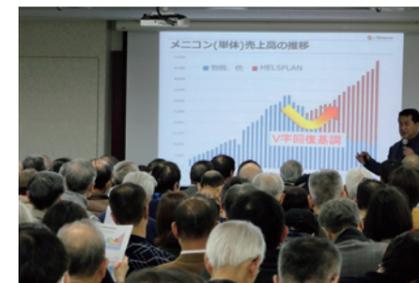
### 株主優待制度を導入

株主の皆様へメニコンの事業をご理解いただくことで、より多くの皆様に応援いただきたいと考え、株主優待制度を導入しています。メニコングループの販売店をご利用いただける優待券をはじめとして、コンタクトレンズケア用品、涙の成分にも含まれるラクトフェリンを主成分としたサプリメント「ラフェリアイ」や「ルナリズム」、動物用サプリメント「ペロワン」など、当社事業に関連した商品からお選びいただけます。選択肢の中には2018年度より社会貢献活動の一環として「トキ保護募金」や「動物愛護委員会」への寄付も用意しています。

今後も株主優待も含めた情報発信を行うことで、継続して株主の皆様とのコミュニケーションを図っていきます。

### 個人投資家向け説明会を定期開催

メニコンは投資家・株主の皆様との対話を通じて、事業に関する理解を深めていただくため、投資家説明会を開催しています。東京、名古屋、大阪にて、代表執行役社長の田中による個人投資家の皆様向けの説明会を開催しました。説明会ではコンタクトレンズ業界の現状と将来性について、メニコンのビジョン、成長戦略を説明させていただきました。今後はコロナ禍の影響を考慮してWebによる説明会も開催し、積極的に対話の機会をつくっていきます。株主の皆様へ末永く「サポーター」として応援いただくために、公正かつ適時、適切な情報開示を目指していきます。



環境関連法規およびその他の同意事項を遵守するとともに、環境に配慮したエネルギーや資源の効率的実践をします。

メニコンの環境宣言

昨今、企業が持続可能な発展に貢献することが社会的責任として位置付けられています。メニコンは、創業以来「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する。」を信条に、お客様に満足いただける商品開発やサービス提供を行ってきました。

私たちメニコンの活動は「ずっと輝く瞳に」を願い、地球の未来を見据えて、「人にも動物にも環境にも優しい地球企業でありたい」と思っています。そして、私たちが開発した技術や英知が地球のすべてに恩返しできることを夢見て、グループ全社で挑戦していきます。



メニコンマークへの想い

メニコンマークには、上部に赤と下部に緑の配色があります。これは、不可能を可能にする情熱の「パッションレッド」と、安全にこだわり続ける技術の「テクノグリーン」をシンボリ化しています。また、メニコンの英字表記は「Menicon」であり、その中には「eco」の文字が含まれています。

メニコンは、角膜が必要とする酸素を透過できる安全なコンタクトレンズの素材開発を行っており、森林では、木々が大気中のCO<sub>2</sub>を取り込んで太陽から注がれる光と葉緑素の光合成によって酸素ができます。双方には酸素を共通のキーワードにした赤と緑の融合があります。



産学連携プロジェクトにて  
夏の新ユニフォーム共同制作

メニコンでは、クールビズの一環として2011年より従業員にオリジナルポロシャツを支給しており、今回、名古屋モード学園との産学連携プロジェクトにて2020年度のユニフォームを共同制作しました。この共同制作は、メニコンが社会貢献活動の一環として、若い人たちの夢やチャレンジ精神を応援したいという想いから実現したものです。

ユニフォームのデザイン画は、ファッションデザイン学科・ファッション技術学科の学生120名から募集し、関係者による審査の結果、ファッションデザイン学科高度専門士コースの高井悠理菜さんの作品が最優秀賞に選ばれました。2020年2月にはHITOMIホールにて「メニコン COOLBIZ スマートデザイン大賞」表彰式を開催し、デザインの発表と表彰式を行いました。

最優秀賞に選ばれたデザインは、約4,500枚製品化され、2020年夏（6月～9月頃まで）、全国で約1,500名のスタッフが着用します。



「新潟県トキ保護募金」、  
「佐渡市トキ環境整備基金」へ寄付金贈呈

メニコンは新潟県庁と佐渡市役所を訪問し、稲わら分解促進材「アグリ革命」シリーズの売上の一部として「新潟県トキ保護募金」に30万円、「佐渡市トキ環境整備基金」に20万円を寄付しました。また、「新潟県トキ保護募金」につきましては、株主の方々から優待申込をいただいた8万4,000円を併せて寄付しました。

メニコンでは、2011年から「アグリ革命」シリーズの売上の一部をトキ保護募金・環境整備基金へ寄付しており、寄

付金はトキの自然環境の保護および保全活動に役立てられています。また、トキ保護活動をさらに盛り上げることで、当社の新規事業である環境パイオ事業への理解を深めてもらうことを目的に、2018年度より株主優待制度に「トキ保護募金」をラインアップしています。

新潟県や佐渡市ではトキが生きやすい環境づくりが進んでおり、環境省によると2019年7月24日時点で、トキ76羽（2019年度）が巣立ちを迎え、佐渡市で生息する野生トキの総数は406羽前後と推定されています。

佐渡市には佐渡市認証米の制度があり、「生きものを育む農法」であることが求められます。農家においては、「アグリ革命」を冬季湛水前の田んぼに広く散布し稲わら分解を行うことで、トキが生きやすい環境づくりに役立てていただいています。

メニコンはこれからも環境に優しい商品の開発を行い、トキと共存できる環境づくりを支援します。



新潟県副知事 米澤朋通氏（右）と田中英成代表執行役社長

クリーン活動

一般社団法人禁煙推進学術ネットワークが毎月22日を禁煙の日 (<http://www.kinennohi.jp/>) と制定しており、当



路上喫煙防止ポスター

社では、毎月22日に本社周辺地域の清掃を実施しています。また、本社隣接の駐車場とHITOMIホールの告知スペースに、「路上喫煙防止ポスター」を掲示しています。メニコンは、これからも地域のクリーン環境維持に努めていきます。

スポーツ・文化事業を通じ、地域住民や社会に貢献します。

健康未来 EXPO2019に  
「メニコン HITOMI LABO」出展

メニコンは、ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）で2019年3月30日～4月7日に開催された日本医学会主催の「みて・ふれて・まなぶ医のテーマパーク」をコンセプトにした4年に一度の市民向けイベント「健康未来 EXPO2019」に出展しました。

「メニコン HITOMI LABO (ヒトミラボ) -目からウロコなヒトミ体験-」と題し、目でものを見る仕組みや動物との見え方の違いが体験できるコーナー、不思議な錯視体験ができるワークショップコーナーやフォトスポットなどを用意し、子どもも大人も楽しんでいただきました。また、3月30日にはスポーツビジョンセミナーを開催し、サッカー解説者の松木安太郎さん、日本スポーツビジョン医科学研究会の石井哲次さんをお招きして「見る力をきたえてスポーツをもっと楽しもう！」をテーマに、「スポーツビジョン」と「スポーツ」の関係についてわかりやすくお話しいただきました。

当EXPOへは期間中、約30万人の方々が登場されました。メニコンはこのようなイベント等を通じて、地域の方々の健康や文化、教育の発展にも貢献しています。



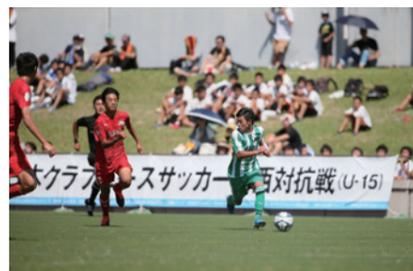
スポーツ・文化事業を通じ、  
地域住民や社会に貢献します。

**サッカー選手を目指す子どもたちの  
チャレンジ精神を応援**

「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する。」を企業スローガンとしているメニコンは、「眼で戦うスポーツ」といわれるサッカーを通じて「視ることの素晴らしさ」をお届けするため、1995年から「メニコンカップ 日本クラブユースサッカー東西対抗戦 (U-15)」に特別協賛しています。

25回記念大会のメニコンカップは2019年9月8日に、名古屋市港サッカー場で開催され、約6,000人の観客が集まりました。100名近いメニコンスタッフもボランティアとして大会をサポート。本大会のスペシャルサポーターとして試合前にはBOYS AND MENの水野勝さん、土田拓海さんが子どもたちとスペシャルマッチを行ったほか、ハーフタイムには二人によるハーフタイムショーなどで大会を盛り上げていただきました。また、地元・名古屋の東邦学園公式バンド TOHO MARCHING BANDに圧巻のマーチング演奏をご披露いただきました。体験コーナーでは楽しみながら、「視ることの大切さ」を学んでいただくために昨年度からの企画で「眼と手の協応動作」を測定するスポーツビジョンコーナーも設置しました。試合は特別ゲストの松木安太郎さんの解説でWeb中継も行われ、大勢の方にご覧いただき、オールウエストが4-1で勝利しました。

また、東日本大震災復興支援活動の一環として、会場で集めた募金2万7,304円を福島県「Jヴィレッジ」に送りました。



**メニコンスーパーコンサート2019**

メニコンは「視ることの素晴らしさ」を多くの方にお届けするために、ホールの臨場感や指揮者の躍動感などを生で感じ、目で見て楽しんでいただけるよう、毎年開催場所を変えて「メニコンスーパーコンサート」を開催しています。

2019年は本社にあるHITOMIホールで、コンタクトレンズの日である9月10日と11日の2日間にわたり「歌劇あしたの瞳ダイジェスト演奏会」として開催しました。公演にはコンタクトレンズユーザーを中心に計200名をご招待しました。

今回は残念ながら宮川彬良さんの出演は映像でのメッセージのみとなりましたが、現在注目されているアーティストを含む出演者を起用し、今までとは違った構成と選曲、かつ、さらにパワーアップした内容で、来場されたお客様を魅了しました。「あしたの瞳ダイジェスト版」としてまた新しい発見のある公演となりました。

コンサート終了時には、恒例となっている主人公のモデルとなった当社の田中恭一会長をお客様へ紹介する場面もあり、会場は大いに盛り上がりました。

※「あしたの瞳」は2013年に東京、2015年に名古屋で上演した宮川彬良さん初の書き下ろしオペラです。コンタクトレンズを生み出した男の半生を細解きながら「みることはなにか?」という問いかけを通じて、人間の心の根源へ迫り、人生を豊かに生きることのエッセンスを伝えています。



**旭山動物園坂東園長講演会**

2020年1月25日、メニコンとメニワン共催で、旭山動物園 (北海道旭川市) の坂東元園長をお迎えして、「伝えるのは命、繋ぐのは命」をテーマに講演会を開催しました。

旭山動物園の最近のニュースや、本当の動物の姿を見てほしいという旭山動物園での「行動展示」の取り組み、ボルネオでの自然環境の保全や野生動物保護のための取り組みなどが動画や写真で多数紹介され、坂東園長の優しさと動物への深い愛情を感じられる講演会となりました。

また、併催としてギャラリーで「冬の旭山動物園写真展」も開催され、環境保全について、動物を通じて身近なところで私たちにもできることがあるのではと考えさせられる1日となりました。



**ペットのためのヘルスケア・セミナー**

2020年2月1日、エンジン01主催「ペットのためのヘルスケア・セミナー」が開催されました。

エンジン01動物愛護委員会は、「犬・猫の殺処分ゼロ」を目指して活動しており、「飼いとげよう」の理念実現のために終生飼育の啓発活動をしています。当社もこの活動を支援すべく、昨年度より株主優待にて株主様からお寄せいただいた寄付金を贈呈しています。そのご縁から今回のセミナーにつながりました。

セミナーは一般のお客様をご招待し、保護犬猫の活動に力を入れている長野県小諸市のさくら動物病院・横山篤司院長から、ペットを最期まで飼いとげるためのアドバイスや、エンジン01動物愛護委員会メンバー6名からペットとのエピソードをお聞きしました。

また、併催としてギャラリーで開催された名古屋ECO動物海洋専門学校による展示や保護猫との触れ合いも大変好評でした。ご来場いただいたお客様には、ペットとの接し方を改めて考え、愛情を持ってペットと触れ合うことの大切さを感じていただけたセミナーとなりました。



**メニコン ANNEX  
(HITOMIホール&ギャラリー Menio)**

●トピックス

メニコン ANNEXは8年目を迎えました。以前から施設の場所がわかりにくいというご意見をいただいていたことから、本社の大通り沿いにサインと掲示板を設置しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に関して、国や県独自の緊急事態宣言を受け、メニコン ANNEXも2020年3月9日から6月10日まで休館しました。催事を予定されていた主催者様へ、開催の中止もしくは延期にて調整を依頼するとともに、ケースに応じて施設使用料返金(キャンセル料無し)、次回の予約優先対応など、主催者様の負担を軽減できるように対応しました。

また、催事再開にあたっては、ホール定員数半数以下の規制にとめない、使用料を半額にて設定。施設の感染防止対策を徹底することで、主催者様およびお客様に安心してご利用いただけるよう、対応しました。



大通り沿いサイン



(感染症対策) 1F コンサート受付時

経営の健全性・透明性を確保し、すべてのステークホルダーから信頼を得ながら、継続的に企業価値を高めていくためにコーポレートガバナンスの充実に取り組んでいます。

## コーポレートガバナンス体制の概要

当社は会社法に規定する指名委員会等設置会社であり、取締役9名(うち社外取締役6名)および執行役員10名(兼務取締役1名を含む)により構成されています。社外取締役は客観的・大局的に、企業価値の向上という観点から執行役が行う経営の監督ならびに助言を行っています。

業務執行および経営の監督の仕組みとしては、株主総会において選任された取締役で構成する取締役会が会社の重要な意思決定と執行役の監督を行い、経営を監視し、取締役会により選任された執行役が担当業務ごとに強化された権限により、迅速で効率的な業務執行を実現しています。

## リスク管理体制

当社は、リスク管理責任者を社長とし、リスク管理の全社的推進とリスク管理に必要な情報の共有化等を図るため、CSR委員会を設置しています。リスクについては、各部門のリスク評価を行い、リスクの回避・低減・移転・受容その他必要な措置を事前に講じています。

事故等発生時の対応および事故等の処理後の報告、人命に関わる緊急事態発生時の報告経路、苦情への対応、医薬品医療機器等法その他の関連法規に則した対応等を定めています。また、災害などにより重要業務が中断しないよう事業継続計画(BCP(Business Continuity Plan))を整備しています。

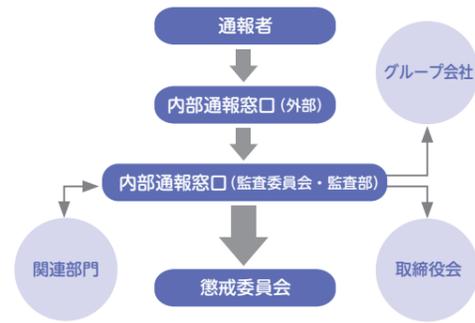
新型コロナウイルス感染症予防への取り組みとして、2月から速やかに緊急対策本部を設置し、うがい、手洗い、マスク着用等による社員個々の予防策の徹底をはじめ、国内外出張の制限、各種イベントの延期や中止、可能な限りのテレワーク等を行い、生産・物流業務を遅延することなく遂行することができました。

この他に、各分野におけるリスク管理のため、「品質保証安全管理委員会」「PLD委員会」「個人情報保護委員会」「メニコン公正取引管理委員会」を設置しています。

## 内部通報制度

当社は、グループにおける法令、定款、社内規程および企業倫理を誠実に遵守する公正な経営を実現するために、違反行為を独立した第三者機関を介して通報する制度を導入しています。この制度はメニコン社員だけでなく、グループ各社の社員、派遣社員も利用できます。通報に対しては事実確認のうえ、適切な対応をしています。

※調査は監査委員会(主として役員に対して)および監査部が中心となり、グループ会社および関連部門はこれに協力する義務を負う。  
※違反行為を行っている者が役員(グループ会社含む)の場合は会社およびグループ会社の取締役会にて適切な対応を行う。



## コンプライアンス体制

当社は、以下をコンプライアンスの基本方針としています。

- ①コンプライアンス(法令・定款等遵守)の実践を、経営の重要課題の一つとして位置付ける。
- ②当社の役員および社員へのコンプライアンスの徹底は、当社の経営の基盤であることを強く認識し、健全かつ公正で透明性の高い企業活動を行う。
- ③経営の健全性、遵法性を高めるため、コーポレートガバナンス(企業統治)機能を維持し、法令・定款等に合致した行動をとる。
- ④法令・定款をはじめとする社会的ルールを遵守し、企業倫理意識を常に向上させていく。
- ⑤常にコンプライアンスを意識した、最良の商品およびサービスを提供し、顧客満足度のさらなる向上を図る。
- ⑥万一、法令・定款等の違反行為が生じた場合には、原因究明を徹底して行い、再発防止に努める。

また、国内のグループ会社向けに独自制作の電子版「コンプライアンスガイド」をイントラネット上に掲示し、海外子会社に対してはコンプライアンス規程の整備を通して、グループとしてもコンプライアンスの維持向上に努めています。特に、コンプライアンスの維持向上を目的としたコンプライアンス教育においては部門単位の教育や全従業員を対象にしたe-ラーニングを活用した学習を計画的に行っています。



## 品質マネジメントシステム

当社では「安全哲学憲章」を掲げ、「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する。」という企業スローガンのもと、品質の確保および顧客満足を目指して、本社はもとより、Menicon SAS、Menicon Pharma SAS、Menicon Limited、Menicon Singapore Pte. Ltd.、Menicon B.V.、SOLEKO S.p.A.、株式会社メニコネットにおいて、医療機器の品質マネジメントの国際規格であるEN ISO13485を取得しています。

EN ISO13485とは、ISO9001をベースに医療機器固有の要求事項を追加した、医療機器の安全性と品質を継続的に確保するための品質マネジメントシステム規格のことです。さらにMenicon Pharma SAS、Menicon Limited、Menicon B.V.、SOLEKO S.p.A.では、欧州の品質保証規格に適合した商品であることを示すCEマークも取得し、国内外に向けて確かな品質をお届けしています。

この品質マネジメントシステムが引き続き適切で、妥当で、かつ有効であることを確実にするために、品質マネジメントシステムの経営層によるレビューを年2回開催しています。このレビューを通じ、お客様からのフィードバックやリ

スクマネジメントを踏まえた製品の継続的評価、ならびに品質マネジメントシステム変更の必要性の評価を行い、当社品質マネジメントシステムの継続的改善に努めています。

また、製造販売後安全管理に関する業務に従事する者に対する社内教育訓練を定期的に行い、お客様を含む市場からの安全管理情報を適切に収集、評価し、製品の安全確保に継続的に努めています。



## 個人情報の保護体制

当社では、お客様および当社に関わるすべての方からお預かりした個人情報を適切に利用し、保護することが事業活動の基本事項であり社会的責任であると考えています。そのため個人情報の保護について細心の注意を払うとともに、当社のサービスを安心してご利用いただくための「個人情報保護方針」を定めるとともに、「プライバシーマーク」を取得し、全従業員に対し定期教育を実施しています。

また、GDPR(EU一般データ保護規則)に対応するとともに、子会社においても当社と同等の個人情報保護水準となる「メニコグループ個人情報保護規程」の整備を行っています。



社内個人情報保護教育テキストより



**株式会社メニコン**

〒460-0006 愛知県名古屋市中区葵三丁目21番19号

TEL 052-935-1515(代)

<https://www.menicon.co.jp/>